


ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		山菜採りに入った山林内でクマの攻撃を受け、重傷。	
発生日	年月日	令和3年4月20日	
	時刻	12:00頃	
	天候	くもり	
発生場所	住所	大館市比内町独鈷日詰	
	山/里の別	山	
	環境	<p>同行者の証言から、事故発生地点は旧作業道（点線）に降りる斜面と推定（×印）。旧作業道上を含め、周辺は柴が繁茂しており見通しはあまり良くない。</p> 	
被害者	年齢・性別	75歳・男性	
	行動目的	山菜採り	
	行動人数	2人	
	クマ対策	なし	
	被害状況	重傷（顔面の挫創および骨折、左手咬傷）	
加害個体	頭数	1頭	
	構成	単独	
	その他		
事故の状況		旧作業道上にいた被害者が、斜面下部の旧作業道上にいた同行者と合流するために斜面を下ったところ、クマと鉢合わせし攻撃を受けた。攻撃後、クマは走って逃走。被害者は同行者とともに自力で下山し、救助された。	
考察		同行者の証言から、クマの攻撃は数秒で終わっており、その後逃走していることから、クマ自身の防衛目的の攻撃と考えられる。クマは鈴を持っていた同行者には気付いていたと推測されるが、音の鳴るものを持っていなかった被害者には気付くのが遅れた可能性がある。クマが被害者と同行者の間に挟まれた状態になり、そこへ被害者が気付かずに近付いてしまったために事故に発展したものと考えられる。2人で離れずに行動し、音を立てて人の存在をアピールしていれば避けられた可能性のある事故。一方で、2人で行動していたこととすぐに救急要請できたこと、同行者とともに下山できたことは複数で行動することの重要性を示している。	
今後の事故防止に向けて		通常のクマとの遭遇防止策 <ul style="list-style-type: none"> ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする 	
その他		令和3年度1件目（1人目）の事故	

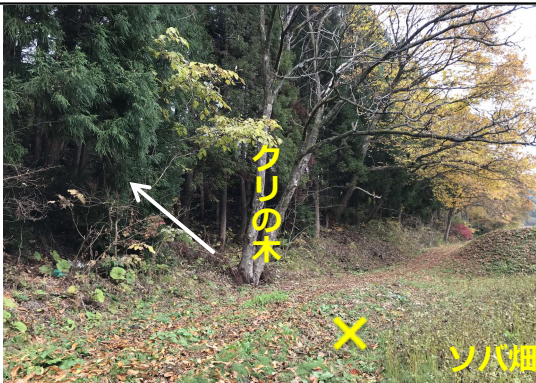
ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		山菜採りに入った山林内でクマの攻撃を受け、軽傷。
発生日	年月日	令和3年7月19日
	時刻	9:00頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	羽後町飯沢字上台
	山/里の別	山
	環境	
被害者	年齢・性別	79歳・男性
	行動目的	山菜採り
	行動人数	1人
	クマ対策	笛
	被害状況	軽傷（顔・背中・脇腹・指に引っかき傷）
加害個体	頭数	1頭（親子のうち親グマから攻撃を受けた）
	構成	親子（当歳1頭連れ）
	その他	
事故の状況		被害者がミズを採っていたところ、気付くと近く（前方3~4m）に子グマがいた。子グマに気付いてすぐ、親グマが飛んできて引っかかれた。とっさに腕を上げて頭を守ったが、指等を引っかかれた。このとき被害者がクマに背中を向けるように倒れたため、左脇から背中にかけても引っかかれた。親子グマは攻撃後、その場を立ち去った。
考察		被害者は笛を携帯していたが、あまり鳴らしていなかった。 このことから、親子グマが被害者に気が付かず、お互いに接近してしまったものと推測される。 親グマの攻撃は執拗でなく、すぐに子グマとともにその場を離れているため、子グマを防衛するための攻撃だったと考えられる。 山の中で親子グマに近距離で遭遇したことによる事故であり、音を立てて人の存在をアピールしていれば避けられた可能性のある事故。
今後の事故防止に向けて		通常のクマとの遭遇防止策 ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする
その他		令和3年度2件目（2人目）の事故


ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		相次いで発生した同一個体による2件の事故 ①新聞配達先の家の玄関前でクマの攻撃を受け、軽傷 ②散歩中にクマの攻撃を受け、軽傷
発生日	年月日	令和3年9月17日
	時刻	3:00頃
	天候	くもり
発生場所	住所	潟上市昭和
	山/里の別	里
	環境	①住宅敷地、②田んぼの中の舗装道路上
被害者	年齢・性別	①75歳・男性、②84歳・女性
	行動目的	①新聞配達、②散歩
	行動人数	①1人、②1人
	クマ対策	①②ともなし
被害状況	被害状況	①軽傷（肩・脇腹・耳に裂傷、打撲）、②軽傷（後頭部・腕に裂傷、肩打撲）
	頭数	1頭
	構成	単独
加害個体	その他	
	事故の状況	①被害者が新聞配達先の住宅敷地前に駐車し徒歩で新聞受けに向かったところ、突然正面からクマにぶつかった。あたりが真っ暗であったこと、軍手をしており毛皮の感触がわからなかったことから、相手がクマだと気付かないまま必死に抵抗。クマの攻撃（バタバタとはたかれた）はあっという間で、クマはすぐに立ち去った。被害者は自力で運転して帰宅し、病院を受診。 ②被害者が散歩中、突然正面からクマの攻撃を受けた。咄嗟に両腕でかばったため顔への受傷は免れた。あたりは真っ暗で、攻撃を受けるまでクマの接近に気付かず、どちらに逃走したかも不明。被害者は徒歩で帰宅し、病院を受診。
考察	2件の事故はほぼ同時刻に発生。位置関係や2地点間の距離、周囲の環境等から、①の事故を起こしたクマが逃走中、そのルート上に居合わせた②の被害者を攻撃したと推測され、同一個体による2件の連続した事故とみられる。 両事故とも攻撃は執拗でなく、加害個体はすぐにその場を離れている。①②とも自己防衛のための攻撃だったと考えられる。 クマの出没を予見しづらい場所で発生した事故であり、予防の難しかった事故。一方で、灯りを持っていればクマが被害者に気付きやすくなり、鉢合わせを避けられたかもしれない。	
今後の事故防止に向けて	・万が一攻撃を受けた場合の致命傷を避けるために、頭や首を守る防御姿勢を普及する	
その他	令和3年度4,5件目（4,5人目）の事故	


ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		クリ拾い中に背後からクマの攻撃を受け、負傷	
発生日	年月日	令和3年9月28日	
	時刻	9:10頃	
	天候	晴れ	
発生場所	住所	鹿角市花輪甘露	
	山/里の別	里	
	環境	<p>事故発生地点はソバ畑脇のクリの木の下（×印）。矢印はクマの逃走方向。 （写真は11月4日に撮影したもの）</p>	
被害者	年齢・性別	84歳・男性	
	行動目的	クリ拾い	
	行動人数	1人	
	クマ対策	車のクラクションを鳴らしてから降車	
	被害状況	重傷（顔面の裂傷）	
加害個体	頭数	1頭	
	構成	不明（被害者が目撃したのは1頭）	
	その他	付近で親子グマの目撃情報があるが、加害個体が親子だったかどうかは不明	
事故の状況		<p>被害者はクラクションを鳴らした後、クリの木の下まで30～40mほど歩いていき、ソバ畑の方向を向いて屈んでクリを拾い始めたところ、背後からクマの攻撃を受けた。攻撃は短時間で終わり、クマはクリの木背後の斜面を登って逃走。被害者は自力で運転して付近に助けを求め、救助された。</p>	
考察		<p>クマにはクラクションが聞こえていたはずで、なぜ当該個体はその場を避けずにわざわざ攻撃をしかけてきたのか不明。一方で、他県でも「しゃがんでいて背後から攻撃を受けた」という、なぜ背後から襲われたのか分からない事例が時折見られる。本事例もそのパターンかもしれない。</p> <p>クマの方から近付いてきて背後から攻撃しているが、攻撃は短く、すぐに逃走していることから、捕食目的の攻撃ではないと考えられる。</p> <p>今年はクリの実りが非常に良いことから、そういった年はより一層の注意が必要と考えられる。複数人で固まって行動していれば攻撃を受けにくいと考えられるほか、万が一攻撃を受けた場合も負傷者の救助や救急要請ができる。今回自力で救助要請ができたが、改めて、複数人で固まって行動することを普及していく必要がある。</p>	
今後の事故防止に向けて		単独行動を避ける	
その他		令和3年度6件目（6人目）の事故	


ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		水路の点検中、クマの攻撃を受け負傷。	
発生日	年月日	令和3年9月29日	
	時刻	7:30頃	
	天候	晴れ	
発生場所	住所	鹿角市八幡平清水向	
	山/里の別	里	
	環境	<p>事故発生地点は山塊から集落内に延びる林内。その林内にある水路脇の歩道上で事故が発生した。水色点線は水路、丸内は高速道路の高架。 (写真は11月4日に撮影したもの)</p> 	
被害者	年齢・性別	78歳・男性	
	行動目的	水路の点検	
	行動人数	1人	
	クマ対策	胸ポケットにラジオを入れていた。 ラジオの音量は家の中で聞く程度の普通のボリューム。	
	被害状況	重傷（右腕骨折、左腕・右耳付近の裂傷）	
加害個体	頭数	1頭（親子のうち親グマから攻撃を受けた）	
	構成	親子（当歳1頭連れ）	
	その他		
事故の状況		被害者が水路に溜まった落ち葉を取り除いていたところ、斜め後ろから突然クマの攻撃を受けた。親グマともみ合っている間、子グマは10mほど離れた場所にいた。攻撃は短時間で終わり、親子グマは水路沿いに逃走。被害者は自力で帰宅した。	
考察		被害者はラジオを鳴らしていたが、付近は川の水音や高速道路を通行する車の音があり、クマが人の気配に気付くづらい環境であった。親子グマが被害者に気付かずに川側から水路沿いの歩道に上がってきたところ、近くに被害者がいたため攻撃したものと考えられた（子グマを防衛するための攻撃）。周囲の騒音を踏まえた音量でラジオを鳴らしたり、笛を吹くなどの対策をとっていれば、避けられた可能性のある事故。	
今後の事故防止に向けて		<p>通常のクマとの遭遇防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする 	
その他		令和3年度7件目（7人目）の事故	


ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		クリ拾い中にクマの攻撃を受け、負傷
発生日	年月日	令和3年10月3日
	時刻	11:15頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	秋田市仁別
	山/里の別	里
	環境	<p>事故発生地点は舗装路脇のクリの木の下（矢印）。木の下はクズ等の藪が密生している。</p> 
被害者	年齢・性別	67歳・女性
	行動目的	クリ拾い
	行動人数	1人
	クマ対策	不明（未聴取）
	被害状況	重傷（顔面・両腕の裂傷）
加害個体	頭数	1頭
	構成	単独
	その他	
事故の状況	クリ拾い中、背後で音がしたので被害者が振り向いたところ、クマと正対した状態になり、攻撃を受けた。その後、クマは逃走。被害者は通りがかった人に助けを求め、救助された。	
考察	<p>事故発生地点周囲には多数のクリの木があり、クマの食痕も多数確認された。糞の大きさ等から、複数のクマが当該箇所に通っていたものと考えられる。</p> <p>攻撃後、クマはその場から逃走していることから、捕食目的などの積極的な攻撃ではなかったと推測される。現地の状況から、クマが被害者と鉢合わせたため攻撃に転じた可能性がある。道路のすぐ脇であっても、クリなどクマの食べもののある場所ではクマと遭遇するリスクがあることを認識し、複数人で行動したり、音や声などで人の存在を積極的にアピールすることが重要。</p>	
今後の事故防止に向けて	<p>通常のクマとの遭遇防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする 	
その他	令和3年度8件目（8人目）の事故	


ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		クリ拾いに向かったところ、クマの攻撃を受け負傷
発生日	年月日	令和3年10月9日
	時刻	13:20頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	北秋田市阿仁小様
	山/里の別	里
	環境	<p>事故発生地点は被害者宅裏。数メートル坂を登った上の台地に山栗が数本ある場所。草刈りがされており、見通しは良い。</p> 
被害者	年齢・性別	78歳・男性
	行動目的	クリ拾い
	行動人数	1人
	クマ対策	なし
	被害状況	軽傷
加害個体	頭数	1頭（親子のうち親グマから攻撃を受けた）
	構成	親子（当歳2頭連れ）
	その他	
事故の状況		クリ拾いをするため、山栗のある高台へ登っていったところ、目の前を親子グマが横切っていった。子グマはそのまま藪に入っていったが、藪の間際から引き返してきた親グマの攻撃を受けた。被害者はクマが飛びかかってきた拍子に倒れつつ、両腕で攻撃を防いだ。攻撃後、親グマも立ち去り藪に入っていった。
考察		<p>加害個体は親グマであり、攻撃後すぐに立ち去っていることから、子グマを防衛するための攻撃だったと考えられる。</p> <p>被害者はクリの木にクマが来ていることを認識していたが、鉢合わせを防ぐような対策を特にとっていなかった。自宅近くであっても、山裾であること、クリの木にクマが常に来ていることを意識して、通常のクマ対策をとっていれば避けられた可能性のある事故。</p>
今後の事故防止に向けて		<p>通常のクマとの遭遇防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする
その他		令和3年度10件目（10人目）の事故

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		畑作業をしていたところ親子グマに遭遇し、攻撃を受け負傷	
発生日	年月日	令和3年10月19日	
	時刻	15:00頃	
	天候		
発生場所	住所	三種町豊岡金田	
	山/里の別	里	
	環境	<p>事故発生地点は被害者自宅敷地内の畑。クマを誘引するようなものは作付けされていなかった。畑のすぐ横は杉林。</p>	
被害者	年齢・性別	88歳・女性	
	行動目的	畑作業	
	行動人数	1人	
	クマ対策	不明（未聴取）	
	被害状況	軽傷	
加害個体	頭数	1頭（親子のうち親グマから攻撃を受けた）	
	構成	親子（当歳1頭連れ）	
	その他		
事故の状況		畑作業をしていたところ、親子グマが杉林から出てきた。一旦クマは杉林に戻ったが、引き返してきた親グマの攻撃を受けた。	
考察		<p>親グマが引き返してきたのは子グマを逃がすための行動と考えられ、子グマ防衛目的の攻撃であったと推測される。</p> <p>付近のクリ畑にはクマが来ており、箱わなを置くなどの対応をとっていた。周辺はクマの通り道となっている可能性があり、林のすぐ脇はクマと遭遇するリスクがあった。自宅敷地内の畑であっても、そういった場所ではラジオをかけながら作業をするなど、クマと鉢合わせをしないための対策が必要と考えられる。</p>	
今後の事故防止に向けて		<p>通常のクマとの遭遇防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする 	
その他		令和3年度11件目（11人目）の事故	

ツキノワグマによる人身事故記録

事故の概要		散歩をしていたところ、鉢合わせたクマから攻撃を受け負傷
発生日	年月日	令和3年11月9日
	時刻	17:10頃
	天候	雨
発生場所	住所	秋田市河辺岩見
	山/里の別	里
	環境	<p>事故発生地点は集落内の路上。道路脇の藪からクマが出てきて被害者と鉢合わせた。周囲の畑にはクリの木とクマの食痕あり。ただし、事故当日は既にクリのシーズンは終了。クマが食べられるクリは無かった。</p> 
被害者	年齢・性別	73歳・男性
	行動目的	散歩
	行動人数	1人
	クマ対策	なし
加害個体	被害状況	軽傷
	頭数	1頭
	構成	単独
	その他	
事故の状況		雨の中、傘をさして散歩をしていたところ、道路脇の藪から出てきたクマと鉢合わせ、攻撃を受けた。被害者はクマと一緒に路肩に転げ落ちた。クマは一旦離れた後、再度攻撃を加えて逃走。
考察		<p>いつもは夫婦2人で、笛または鈴を携帯して散歩していたが、事故発生時はバラバラに散歩をしており、鈴や笛も携帯していなかった。また、事故当時はそれなりの雨が降っていたこと、周囲に街灯はなく暗かった（11/9の日の入りは16:29）ことから、クマも被害者もお互いの存在に気づきづらい状況であったと考えられる。</p> <p>クマが道路に出てきた理由は不明だが、事故の原因は出会い頭にクマと遭遇してしまったことであり、いつものとおり音を鳴らし人の存在をアピールしていれば避けられた可能性の高い事故。</p>
今後の事故防止に向けて		<p>通常のクマとの遭遇防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独行動を避ける ・音出し、声出しなどにより人の存在をアピールする
その他		令和3年度12件目（12人目）の事故